

《担当者名》黒崎芳子

【概要】

言語聴覚療法の対象である失語症に対する、基本的検査・評価技能、治療技能を実技的に学ぶ。

【学修目標】

リハビリテーション専門職として必要な実践的能力を備えるために、失語症検査・評価技能、治療技能を実技的に学ぶ。

1. 主要な失語症検査・評価の理論について理解し、説明できる。
2. 失語症検査の具体的方法を理解し、実施できる
3. 失語症検査の結果のまとめ方を理解し、説明できる。
4. 失語症検査の結果から、問題点、予後、ゴール設定、訓練内容が説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	講義・オリエンテーション	標準失語症検査（SLTA）の沿革、目的、構成、採点、解説	黒崎芳子
2	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(聴く)の評価	黒崎芳子
3	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(聴く)の評価	黒崎芳子
4	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(話す)の評価	黒崎芳子
5	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(話す)の評価	黒崎芳子
6	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(読む)の評価	黒崎芳子
7	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(書く)の評価	黒崎芳子
8	失語症検査	SLTA下位検査の実施、採点 症状(書く)の評価	黒崎芳子
9)	結果の解釈・言語所見	SLTAのプロフィール作成および分析 言語所見の作成 (失語症のタイプ・重症度/発話症状の把握/モダリティ別障害レベル/記載方法)	黒崎芳子
10			
11)	評価報告書作成	SLTAの結果に基づいた言語評価報告書作成 (言語所見/ICFによる問題点/ゴール設定/訓練内容)	黒崎芳子
14			
15	評価報告の実際	SLTAの結果に基づいた言語評価報告書作成 (言語所見/ICFによる問題点/ゴール設定/訓練内容)	黒崎芳子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート30% 定期試験70%

フィードバックとして、授業内で提示した演習課題のポイントを解説する。

【教科書】

藤田郁代 他 編 「標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版」 医学書院 2021年

日本高次脳機能障害学会 編 「標準失語症検査マニュアル 改訂第2版」 新興医学出版 2003年

【学修の準備】

予習では、教科書を読み検査内容を理解し、採点方法などの基準を理解しておくこと（60分）。

復習では、教科書と授業で配布された資料を整理し、検査方法の理解を確実にすること（30分）。

演習課題が確実に行えるよう実技練習を行うこと（30分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

黒崎芳子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、失語症検査の実技の習得を指導するとともに、失語症の評価・診断、リハビリテーションについて実践的演習を行う。